

# ガザ子どもも殺すな

【カイロ＝秋山豊】ケテルス国連事務総長は、パレスチナのガザが「子どもの墓場」になりつつあると警告しています。ガザ当局によると15日まで、イスラエル軍の無差別攻撃で4710人の子どもが殺されました。遺体の損傷がひどくて身元の特定ができず、埋葬場所の不足で子どもも集団埋葬されています。

本紙の電話取材に応じたガザ南部ハンユニスのシハド・アルシャマリさんは「痛ましい姿になった子どもたちの遺体をあまりに多く見ている。苦しめて眠ることができない」と語りました。

アルシャマリさんは墓を掘る仕事をしています。毎日数十体の遺体が運ばれてきます。十分な土地がなく、住宅の周辺に集団埋葬用の穴を掘



アハマドさん

## ひどい損傷 身元特定できず 遺体さえ尊厳奪われ…

っています。墓石もありません。アルシャマリさんと親しいアハマドさんは遺体を袋に入れ、白い布で包み、埋葬に働いています。

毎日のように空爆で子どもが行方不明になった家族が「私の子どもの遺体が届いていないか」と泣きながら捜しに来ると言います。

「誰の子ともかわからずに埋葬せざるを得ないことが多い。親の気持ちを思うと胸がはりさけそうだ」。運ばれてくる遺体の多くは爆撃の熱を帯び、火薬やガスの臭いを放っていると言います。

アハマドさんは「イスラム教では遺体を布に包む前に洗うことが求められる。しかし遺体がばらばらにされていたり、頭部がつぶされていたりして洗うこともできない。遺体さえ人間としての尊厳を踏みにじられている」と悲しみます。「国際社会はガザで人間が虐殺されているのをただ見守っているのではない」と訴えました。